

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：25510

学校名：真栄小学校

	令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 <男子>	○前回の記録と同程度もしくは上回った種目 上体起こし、20m シャトルラン、立ち幅とび ソフトボール投げ、長座体前屈	○前回の記録より下回った種目 握力、反復横とび、50m走	・体力・運動能力については、女子が昨年度に比べ、下回った種目が多い。運動への意識や運動習慣の傾向を分析し、引き続き、様々な運動に触れられるような機会を意図的に設定し、目標や目的をもって主体的に取り組んでいく。
体力・運動能力 <女子>	○前回の記録と同程度もしくは上回った種目 ソフトボール投げ、握力、20mシャトルラン	○前回の記録より下回った種目 上体起こし、長座体前屈、反復横とび、 50m走、立ち幅とび	
運動・スポーツへの意識、 運動習慣	「体育の授業は楽しい」 R6 男子 92.3% 女子 92.6% R7 男子 97.3% 女子 93.4%	どんなときに体育の授業が楽しいと感じますか 「できなかったことができるようになったとき」 R6 男子 96.1% 女子 100% R7 男子 97.3% 女子 100%	・運動やスポーツをすることが好きな傾向が見られる一方で、体力・運動能力の向上について、自分なりの目標を立てている割合が全国平均より下回っている。

三つの取組

①体育・保健体育等の授業の充実

②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組

③子どもが自らの健康づくりを図る取組の充実

具体的な取組

○ただ運動に取り組むのではなく、子ども一人ひとりが「目標」をもって授業の計画や、様々な子どもにあった「場の確保」をして、「できた」「楽しい」「休み時間にもやってみよう」と感じられるような授業の実施。

○全校的に鉄棒・跳び箱・マット運動に取り組む期間（○○週間）を設け、授業時間と子どもの運動量の確保、増進を図るとともに、休み時間等の運動意識へつなげる。

○授業中の実運動時間を確保し、さらにICTを活用して、自分の動きを客観的に見ることで解決に向かう方法を模索したり、考えを発信したりすることができる学習を行う。

○子どもの多様性を尊重しつつ、教師が率先して外遊びや集団遊びを奨励する。

○授業時間だけでなく、休み時間や放課後の運動意欲へつながらよう、「外遊びウィーク」や、縄跳びに取り組めるような「なわとびウィーク」を設定し、外遊びを推奨していく。

○児童委員会が主体となって、児童主導による運動集会の企画・運営を進められるようにする。

○校内の空間や運動器具を有効活用し、安全に楽しく体を動かすことができるよう工夫する。

○共感的協同的に関わり合う仲間づくりを大切にし、子どもたちが仲間と楽しみながら体を動かしたくなるような関係を育む。

○栄養教諭や養護教諭と連携しながら、子どもたちの実態を踏まえた適切な食指導を実施する。

○健康を保持増進しようとする態度を育成する指導を充実させる。

○保健体育を含む様々な教科での学習内容と学級活動や普段の生活とを関連付け、健康への理解を深めることで、自分自身の生活習慣を見直すことができるようにする。

家庭・地域との連携・協働

○児童アンケート・保護者アンケート等を活用し、家庭での運動に対する関心や意識を高める。

○走り方教室やエスポラーダなどのプロによる出前授業、地域学校協働活動推進事業で外部講師を積極的に活用したり、清田区のプールの活用したりして、体験的な学習の充実を図る。